

学校の教育目標	未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成				経営理念		チーム風早小で進める学校運営			
	【めざす子供像】 ○自分で考え、行動できる子 ○相手の立場を理解し、互いに協力し合う子 ○見通しをもって、挑戦しようとする子 ○学校や地域を愛する子						① チャレンジ……………目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ……………アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション……………学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール			

評価計画						自己評価					学校関係者評価 ※学校の自己評価に対する評価			改善方策	
中期経営目標		短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価			コメント	改善方策
						10月	2月				A	B	C		
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	【研修テーマ】 児童の自己調整力を高め、主体的に学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びの視点に立った授業づくりを目指して～	・自分で学習方法を選択し、学びを進めている児童80%以上。 ・学習を振り返り、次に生かすことができる児童80%以上。 ・標準学力調査の平均正答率を各学年が上回る。	80%	・外部講師を活用し、校内授業研究年間1人2回以上行う。 ・各担任は年間1単元以上、自由進度学習をはじめとした個別最適な学びを取り入れた授業を実施する。 ・各学力検査等の結果から改善計画を各学年で立て、実践する。										
		ICTの効果的な活用	ICTを効果的に活用した授業を週1回以上行う。(教職員の肯定的評価85%以上)	85%	・ICTを活用した校内研修を年10回以上行う。 ・児童に対して、市主催のICTコンペ、タイピング大会への参加を促す。 ・効果的な活用事例を蓄積し、共有化する。 ・全校朝会で呼びかける。										
豊かな心	向上的変容をめざす集団づくり	風早プライドの徹底(挨拶・返事)	自分から進んで気持ちの良いあいさつができる児童の自己評価85%以上	85%	・全校朝会で呼びかける。 ・各学級による振り返りを、毎日行う。 →肯定的評価90%以上 ・月ごとの振り返りを全校放送で行い、挨拶・返事のレベルを上げる。→肯定的評価85%以上										
		読書習慣の定着	本を読むことが好きな児童の自己評価80%以上 年間目標読書量(60冊以上)を達成した児童の割合75%以上	80% 80%	・毎週月曜日と木曜日に、15分間の朝読書を行う。 ・読んだ本を記録する。(読書貯金) ・図書祭で、読書量の多い児童を表彰する。 ・図書委員による、スタンプラリー等のイベントの実施。										
健康でたくましい体	成長を実感できる体力・健康づくり	運動に係る自己記録の更新	「50m走」の計測記録で、自己記録更新できた児童の割合80%以上 挑戦カードで目標記録を意識して水泳と持久走に臨んで児童の割合80%以上	80%	・準備運動に、「ラダー運動」「縄跳び」を加え、年間を通して、すばやく動作を繰り返す能力を高めていく。 ・大休憩の最初の時間に、ジャンプ運動を行い、地面をける力を高める。 ・1年間で50m走を2回実施する。 ・水泳や持久走練習の実施前に、挑戦カードを配布し、目標の記録を意識した練習を実施する。										
		基本的な生活習慣の向上	「自分が決めた就寝・起床時刻を守る」児童の割合80%以上 「自分が決めたゲーム遊びの時間、メディア視聴の時間を守る」児童の割合80%以上	80% 80%	・生活習慣アンケートを前後期1回ずつ実施する。 ・生活習慣に関する保健指導を児童へ実施する。 ・保健だよりや懇談会等を通して、「睡眠の大切さ」や「ゲームなどの付き合い方」について話し合う。										
革 開かれた学校づくりと働き方改革	コミュニティスクールの充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	母校・地域に愛着と誇りをもたせる「地域貢献型の生活科・総合的な学習の時間」の推進	地域への愛着度についての児童アンケートの肯定的評価90%以上	90%	・MTの招致を各学年2回以上実施する。 ・地域との連携活動を各学年1回以上実施する。 ・C.Sの校内研修を実施する。 ・C.S連絡会の定例化と、C.S推進員や地域学校協働活動推進員との連携を行う。 ・学校だより、C.Sだよりを月1回発行する。										
	働き方改革と業務改善の推進	教職員が健康で働きがいのある職場づくり	・頑張れたこと・成長したことがあるといえる教職員の割合90%以上 ・学校は、働きがいがあると感じる教職員の割合90%以上	90%	・校務部会を月1回実施し、業務の見直しを図るとともに、新たな取り組みに挑戦する。 ・業務改善、業務削減に係る意識調査を年2回実施し、企画委員会等で協議し、実施できることを全職員の共通認識のもと取り組む。 ・超過勤務平均を毎月45時間未満とする。										

評価★ 4…目標を上回って達成（5／6学級以上） 3…目標どおりに達成（4／6学級）
2…目標をやや下回って達成（3／6学級） 1…目標をかなり下回ってに達成（2／6学級以下）

評価 4…目標を上回って達成（110%～） 3…目標どおりに達成（90%～110%）
2…目標をやや下回って達成（70～90%） 1…目標をかなり下回って達成（～70%）